

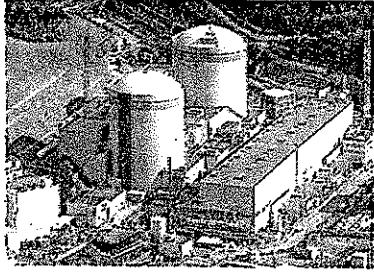
高浜町長が再稼働同意

1・2号機 福井知事の判断焦点

運転開始から40年を超える老朽原発の関西電力高浜1、2号機（福井県高浜町）について、高浜町の野瀬町長は1日、再稼働に同意すると表明した。今後は福井県の杉本達治知事の判断が焦点になる。関電は3月以降の再稼働を目指すが見えぬが、実現するかは不透明だ。

野瀬町長は町議会の上尾徳郎議長と面談し、意向を伝えた。地元首長による老朽原発再稼働への同意は全国初。野瀬町長は取材に「町の経済や産業、行政運

高浜1、2号機を巡る当面の日程



2月 1日	高浜町長同意表明
2月16日	福井県議会開会 (3月17日まで)
3月	関電、1号機の再稼働を目指す
5月	関電、2号機の再稼働を目指す
6月 9日	テロ対策施設の設置期限

営を考えた時、原発が稼働することが町の将来に資すると考えた」と話した。

町が2019年度に得た電源三法交付金は約29億1300万円。野瀬町長は2011年11月、40年を超える運転を想定した交付金の増額などを経産省に求めた。梶山弘志経産相は1月29日、野瀬町長とのオンライン面談で、「町の皆さんの思いに寄り添い、きめ細かく最大限支援したい」と述べた。杉本知事は再稼働を判断する前提として、原発から出る使用済み核燃料の中間貯蔵施設について、県外の候補地を20年中に示すよう関電に求めていたが、現時点でも示されていない。中間貯蔵施設を巡っては、大手電力10社でつくる電気事業連合会が20年12月、青森県むつ市の施設を電力各社で共同利用する案を検討していると公表。共同利用案について、関電の森本孝社長は「積極的に参画したい」と発言したが、むつ市の宮下宗一郎市長は否定的な考えを示している。原発の再稼働には首長や議会の同意が必要だ。関電が再稼働を目指すのは高浜1、2号機と美浜3号機（同県美浜町）。高浜町議会は昨年11月、美浜町議会は同12月に再稼働に同意した。野瀬町長に続き、美浜町の戸嶋秀樹町長は2月中旬にも判断するとみられる。

高浜1、2号機は、テロ対策施設「特定重大事故等対処施設」を設置する期限

が6月に定められている。杉本知事の同意を得て再稼働できたとしても、同施設が期限内に完成しなければ、6月にはまた停止することになる。

同施設の工事が進まず、知事同意のプロセスも遅れて6月に近づくほど、再稼働への判断を急ぐ必要が薄れるという見方も関係者の中にはある。関電が想定する再稼働のスケジュールは、1号機は3月以降、2号機は5月以降だが、先行きは見通せない状況だ。
(佐藤常敬)